

平成23年度 東大まちづくり大学院

「復興まちづくり」連続セミナー

大震災からの復興に向けて日本全体が総力を結集しています。東大まちづくり大学院では、各分野の専門家を講師にお迎えし、復興に向けた最新情報や多様な取組みを紹介しながら「復興まちづくり」連続セミナーを開催します。

●第1回 12月5日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「宮城県における復興計画の経緯と課題」

東京大学大学院教授、宮城県震災復興会議委員、岩沼市復興会議議長 石川幹子氏



●第2回 12月12日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「仮設コミュニティでつくる新しい高齢化社会のデザイン」

—コミュニティケア型仮設住宅の提案と住民共助型活動を通じた仮設コミュニティづくり—

東京大学大学院教授 大方潤一郎氏 / 東京大学大学院准教授 小泉秀樹氏 / 東京大学大学院准教授 大月敏雄氏
東京大学高齢社会総合研究機構研究員 後藤純氏 / 東京大学大学院建築学専攻博士課程 富安克輔氏



●第3回 12月16日(金) 18:30-20:30 山上会館 大会議室

「震災後の交通まちづくりについて考える」—論点整理と実例に即した議論—

東京大学大学院教授 原田昇氏 / 東京大学大学院准教授 羽藤英二氏



●第4回 1月16日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「津波被害の特徴と今後の津波防災」

東京大学大学院教授 佐藤慎司氏



●第5回 1月23日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「津波に強い建築物のあり方」—津波避難ビルの構造要件について—

東京大学生産技術研究所教授 中埜良昭氏



●第6回 1月30日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「津波被災市町村の復興まちづくりについて」

国土交通省都市局市街地整備課長 望月明彦氏



●第7回 2月13日(月) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「東日本大震災の被災地復興に向けた住まいづくり」

国土交通省住宅局住宅総合整備課長 伊藤明子氏



●第8回 2月16日(木) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「大震災と希望学」

東京大学社会科学研究所教授 玄田有史氏



●第9回 2月21日(火) 18:30-20:30 工学部14号館141教室

「復興計画における風景の再生」

—過去の復興計画をふりかえることから将来を考える—

東京大学先端科学技術研究センター教授 西村幸夫氏 / 慶応義塾大学講師 中島直人氏



●第10回 2月24日(金) 18:30-20:30 山上会館大会議室

「創造的復興まちづくりの仕組みと体制」

—復興まちづくり会社・復興まちづくり条例を創ろう—

東京大学大学院教授、日本学術会議会長、復興構想会議委員 大西隆氏
(株)市民未来まちづくりテラス代表取締役 松本昭氏



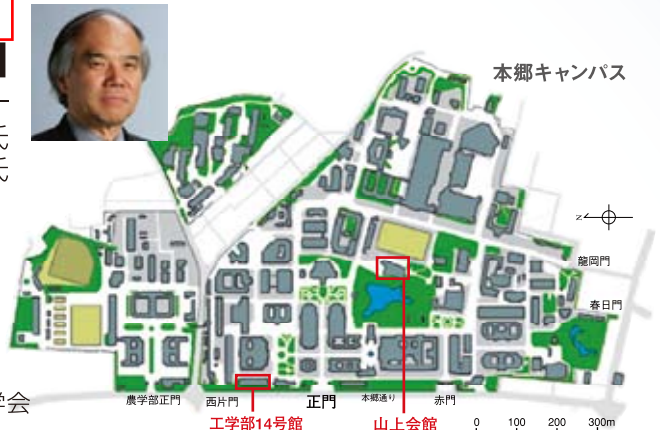
■参加費(無料) 各回定員100名 (事前申込制)

■メールでお申し込みください。 seminar@mps.t.u-tokyo.ac.jp

お名前・ふりがな・所属・連絡先・参加希望回(5回以上参加希望の方は状況により調整を願います)を明記してください。 ※ご質問もメールでお寄せください。

主催: 東大まちづくり大学院

後援(予定): 国土交通省/公益社団法人日本都市計画学会/社団法人日本建築学会
財団法人都市計画協会/NPO法人日本都市計画家協会



●第1回 12月5日(月) 工学部14号館141教室
宮城県における復興計画の経緯と課題
講師：石川幹子氏

宮城県における震災復興計画の経緯と現状、今後の課題について、震災発生より時系列でその要点を述べていきます。また、市町村計画である岩沼市復興計画については、策定の責任者として、その内容を詳述するとともに、仙南広域圏の復興の現状についてコメントします。

●第2回 12月12日(月) 工学部14号館141教室
仮設コミュニティでつくる新しい高齢化社会のデザイン
—コミュニティケア型仮設住宅の提案と住民共助型活動を通じた仮設コミュニティづくり—
講師：大方潤一郎氏／小泉秀樹氏／
大月敏雄氏／後藤 純氏／富安亮輔氏

住宅と駐車場だけあっても人は生きていけない。仮設のまちであっても、ミニマムなコミュニティスペースやケアサービス、店舗、移動手段が無ければ生活はおぼつかない。コミュニティが無ければ老人は引きこもって弱ってしまう。応急仮設住宅をいかに応急仮設コミュニティにアップグレードするか。東京大学仮設まちづくり支援チームの釜石、遠野、大槌町などでの活動から見えてきたことを語ります。

●第3回 12月16日(金) 山上会館 大会議室
震災後の交通まちづくりについて考える
—論点整理と事例に即した議論—
講師：原田 昇氏／羽藤英二氏

東日本大震災後の交通まちづくりは何を目指すべきか。まず、原田が、震災後の計画目標のプライオリティ、復興計画の特徴を踏まえて、交通まちづくりの観点から特に着目すべき施策を提案します。次に、具体論として、羽藤が震災直後から国、県、自治体で関わってきた実際の取り組みを例に、防潮堤、避難道、鉄道、高台移転についてその復興計画策定の論点整理を行います。最後にフロアと自由に議論する予定です。

●第4回 1月16日(月) 工学部14号館141教室
津波被害の特徴と今後の津波防災
講師：佐藤慎司氏

東北地方太平洋沖地震津波は、歴史上最大規模の津波を発生させ、北海道から関東地方までの広い範囲に未曾有の被害をもたらしました。本セミナーでは、津波発生直後から約3か月にわたって全国的に実施された津波痕跡高調査に基づき、今回の津波と被害の特性を分析したうえで、ハード対策とソフト対策のそれぞれにおいて今後の津波防災のあり方を議論します。

●第5回 1月23日(月) 工学部14号館141教室
津波に強い建築物のあり方
—津波避難ビルの構造要件について—
講師：中埜良昭氏

東北地方をはじめとする太平洋沿岸はこれまで繰り返し津波被害を受けてきたが、東日本大震災では約2万人を数える犠牲者の9割超は津波による溺死とされ、津波に強いまちづくりは今後の地震防災対策の一つの大きな柱として強く再認識されました。本セミナーでは、津波に強いまちづくりを具体化するために必要となる津波避難施設の構造的要件について紹介し、津波に強い建築物のあり方についてセミナー参加者と議論します。

●第6回 1月30日(月) 工学部14号館141教室
津波被災市町村の復興まちづくりについて
講師：望月明彦氏

東日本大震災において津波の被害にあった市町村における、復興まちづくり計画の策定状況や内容について概括するとともに、国のこれまでの計画策定支援について説明します。また、今回の震災に関連して新たに創設、充実した復興まちづくり施策の概要について紹介するとともに、今後の復興まちづくりを円滑に進める上で想定される課題とその対応について考えます。

●第7回 2月13日(月) 工学部14号館141教室
東日本大震災の被災地復興に向けた住まいづくり
講師：伊藤明子氏

東日本大震災においては、約12万棟の住宅が全壊し、これに対して、民間の借り上げも含めて仮設住宅約11万戸が提供されています。今後、本格的な復興に向けて、生活の基盤である住宅をどのように確保していくのか、配慮すべき点はどのようなことか。被災者や被災地の特性を踏まえて、補正予算も含めて国の取り組みや地域での動きについて紹介します。

●第8回 2月16日(木) 工学部14号館141教室
大震災と希望学
講師：玄田有史氏

社会科学研究所では、希望学(希望の社会科学)という研究を進めてきました。希望学でみつけた、地域に希望が生まれる条件は3つ。「ローカル・アイデンティティ(地域らしさ、地域の強みなど)を絶えず再構築していくこと」「様々なニーズや能力を有する住民の間で、希望の共有を図るべく、対話を繰り返すこと」「地域内外を問わず、多様なネットワークを広げ、新しい創造や連携の可能性を絶やささないこと」。希望学はこれらを念頭に置きつつ、岩手県釜石市において調査研究を続けています。

●第9回 2月21日(火) 工学部14号館141教室
復興計画における風景の再生
—過去の復興計画をふりかえることから将来を考える—
講師：西村幸夫氏／中島直人氏

明治三陸津波や昭和三陸津波において、その後、どのような復興の経緯をたどったのか、そこにおける計画とはどのくらい有効だったのかに関して、振り返り、そこでどのような風景が再生されてきたのかを論じます。このことを通して、今回の復興計画で生まれるであろう三陸のまちの風景とそのあり方について考察します。

●第10回 2月24日(金) 山上会館大会議室
創造的復興まちづくりの仕組みと体制
—復興まちづくり会社・復興まちづくり条例を創ろう—
講師：大西 隆氏／松本 昭氏

国の第3次補正予算を踏まえ、被災自治体の震災復興計画が、地域主導の下、迅速かつ確実に透明性を持って進められるための仕組みや体制、効果的な実施方法などについて提起します。また、気仙沼市等を事例にして、産業と暮らしの再生、雇用の創出を牽引する「復興まちづくり会社」、住宅市街地や中心商業地の復興まちづくりを進める組織、手順、合意形成、強力な支援方策等を定めた「復興まちづくり条例」の試案を提起して参加者と意見交換を行います。